

# Syllabus

開講年度	開講学部等	日英区分:日本語		
2023	共通教育			
開講学期	曜日時限	授業区分	AL(アクティブ・ラーニング)ポイント	YFL育成プログラム
後期集中	集中	講義	5.8	
時間割番号	科目名[英文名]			単位数
1002220013	知財展開科目B1(標準化と知的財産)[Intellectual Property Development Subject B 1]			1
担当教員(責任)[ローマ字表記]				
陳内 秀樹[JINNAI Hideki]				
担当教員[ローマ字表記]				
陳内 秀樹 [JINNAI Hideki], 生田 容景				
区分	対象学生	全学生	対象年次	

## 持続可能な開発目標 (SDGs)



※この科目は、学部生向けに開講しています。  
同時に山口大学知的財産教育プログラム(履修証明プログラム)として提供さ  
位15時間以上)です。  
履修証明プログラムにおいても科目の修得基準は60点以上です。  
また、本科目では教員、学生間が双方向で議論する授業を行います。開講日  
第、担当教員よりお知らせいたします。  
※4日間の集中講義<11/25.12/3オンライン開講を予定>

## 開設科目名(英訳)

Standardization and Business

## 使用言語

日本語

## 概要

経済のグローバル化が進む中、自らの技術を国際的に広めるためには国際標準の獲得が重要になっています。例えば、いかに優れた製品であっても国際標準とならなかったために海外において販売ができないなどといったことが起こっています。本講義では標準化の概要や標準をどのようにしてビジネスに活用していくのか、また知的財産権との関係等について解説します。授業は、後期集中講義形式で吉田キャンパス、時間帯は8:40~16:00で実施します。

## 一般目標

- 身近な製品やビジネスについて、標準の観点から考える力を身につける。
- 標準化を通してグローバルな視点で思考する力を身につける。
- 標準化とビジネスの最先端で活躍中の専門家の話に直接触れ議論することで、ビジネス上の解決策を導き出す力を身につける。

## 授業の到達目標

知識・理解の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準が身近な製品や生活に活用されていることを理解する。</li> <li>標準とビジネスの関係について理解する。</li> <li>標準に基づく適合性評価制度について理解する。</li> <li>標準と法律(知的財産法、独占禁止法)との関係を理解する。</li> </ul>
思考・判断の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた状況において、ビジネス上の合理的な判断をすることができる。</li> </ul>
関心・意欲の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準化がどのように生活やビジネスに役立っているか関心を持って思考することができる。</li> </ul>
態度の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準とビジネスとの関連性を踏まえて思考することができる。</li> </ul>
技能・表現の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスにおける標準の活用について自ら考え、標準の意義について他人に正しく伝えることができる。</li> </ul>
その他の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準の重要性を理解するとともに、自ら標準作成に関わる姿勢、ツール(手段)を持つようになる。</li> </ul>

## 授業計画

### 【全体】

土日2日間の集中講義によるzoomによるオンライン開講

今年度の開講日は未定(調整中)

昨年度の開講日時2022年11月26日(土)9:00~16:20 2022年12月4日(日)9:00~16:20



第6回	試験方法標準 適合性評価と認証	・適合性評価とは 歴史、適合性評価の主体 供給者適合宣言(自己認 証) 第三者適合性評価 第三者認証制度 適合性評価を用いた制度 海外の適合性評価 認定機関の品質確保 適合性評価システムの構 造 ・認証を使うメリット ISO9000、ISO14000 等 ・演習 と	小レポート・ワークシートの提出				[少](授 業時間 の15% 未満)	[中](授 業時間 の 15% ~ 50%)	[少](授 業時間 の15% 未満)	[少](授 業時間 の15% 未満)	[あり]	----
第7回	オープンイノベーションと標準化	・二つのタイプのオープンイ ノベーション ・知財と標準化のビジネス活 用 ・研究開発の段階別の利活 用 ・段階別に見た技術形態の 選択例 ・演習 ・演習 (演習)	小レポート・ワークシートの提出				[少](授 業時間 の15% 未満)	[中](授 業時間 の 15% ~ 50%)	[少](授 業時間 の15% 未満)	[少](授 業時間 の15% 未満)	[あり]	----
第8回	演習2	特許と標準化の組み合わせ によるビジネス戦略	小レポート・ワークシート(演 習課題)の提出				[少](授 業時間 の15% 未満)	[少](授 業時間 の15% 未満)	[少](授 業時間 の15% 未満)	[少](授 業時間 の15% 未満)	[あり]	----

5.8ポイント

#### 成績評価法

##### 【全体】

演習課題(授業内レポートとしてワークシートの記載内容)・小レポートをもって総合的に評価する。

##### 【観点別】

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	JABEE収集資料
定期試験(中間・期末試験)	---	---	---	---	---	---	---	---
小テスト・授業内レポート	---	---	---	---	---	---	50%	---
宿題・授業外レポート	---	---	---	---	---	---	30%	---
授業態度・授業への参加度	---	---	---	---	---	---	---	---
受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品	---	---	---	---	---	---	10%	---
演習	---	---	---	---	---	---	10%	---
出席	---	---	---	---	---	---	欠格条件	---
その他	---	---	---	---	---	---	評価に加えず	---

#### ループリック等の評価基準

	ファイル名	備考
ループリック等の評価基準	設定されていません。 設定されていません。 設定されていません。	

(注)ループリックとは、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成される評価指標のことを言います。

#### 教科書にかかわる情報

教科書	書名	ISBN	出版年
	教則標準化とビジネス	978-4-9903935-4-0	
	著者名 江藤学, 辻田美紗, 佐々木通孝著	出版社 山口ティール・エル・オー	2018

##### 備考

オンライン版が以下からダウンロードできます。

[https://www.jsa.or.jp/datas/media/10000/md\\_4944.pdf](https://www.jsa.or.jp/datas/media/10000/md_4944.pdf)

#### 参考書にかかわる情報

参考書	書名	JISハンドブック「国際標準化」(日本規格協会)	ISBN	
	著者名	日本規格協会	出版社	日本規格協会
参考書	書名	JISハンドブック「適合性評価」(日本規格協会)	ISBN	
	著者名	日本規格協会	出版社	日本規格協会
参考書	書名	「標準化実務入門」(平成28年度出版)	ISBN	
	著者名	経済産業省監修	出版社	日本規格協会

##### 備考

## メッセージ

ケーススタディーにより議論し、理解を深め戦略的な思考力を育みます。  
ルールメーカーとなり、世界を牽引する力を磨きましょう。

## キーワード

標準、標準化、国際標準、ISO、IEC、ITU、JIS、認証、適合性評価、知的財産

## 持続可能な開発目標 (SDGs)

(教育)すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。  
(経済成長と雇用)包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。  
(インフラ、産業化、イノベーション)強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。  
(不平等)各国内及び各国間の不平等を是正する。  
(持続可能な生産と消費)持続可能な生産消費形態を確保する。

## 関連科目

共通教育科目「知的財産入門」  
知財展開科目「特許法」、「技術経営と知的財産」

## 連絡先

陳内 h-jinnai@yamaguchi-u.ac.jp  
生田 yklee@yamaguchi-u.ac.jp

## オフィスアワー

普段は常盤キャンパスにいます。  
基本は、電子メールにて連絡下さい。